

1 研究テーマ

学習に生きる学校図書館をめざして

～子どもの主体的な学びを育てる図書館経営と司書教諭の役割～

2 問題提起

児童生徒の主体的な学習活動を支えるとともに、読書活動を通じて子どもたちの人間形成や情緒をはぐくむ場として、学校図書館への期待が高まっている。「子どもの読書活動の推進に関する法律」の施行や国の財政措置など法的にも手立てがなされ、学校図書館の整備や蔵書数の充実が図られている。平成15年4月からは12学級以上の学校で司書教諭の配置が義務付けられた。これは、「生きる力」の育成をめざす新学力観のもと、学校図書館のあり方が問われ、その運営の推進者としての司書教諭に大きな期待がかけられていることの現われだといえる。しかし、自分自身を含め、思うような活動ができず苦勞している司書教諭もあるのではないだろうか。学習に生きる学校図書館にするための図書館経営のあり方と司書教諭の役割を考えたい。

3 研究の目的

学校図書館の現状と問題点を明らかにする。

学習に生きる学校図書館にするための図書館改善プランを作り、実践化を図る。

学校図書館を活用した学習の授業実践を行い、司書教諭の役割を考える。

4 本研究の内容

(1) 学校図書館の現状と問題点

学校図書館基準に示されている学校図書館の三要素「人」「資料」「施設」について、全国の状況と比較しながら鳥取県小学校の現状と問題点を探ってみた。

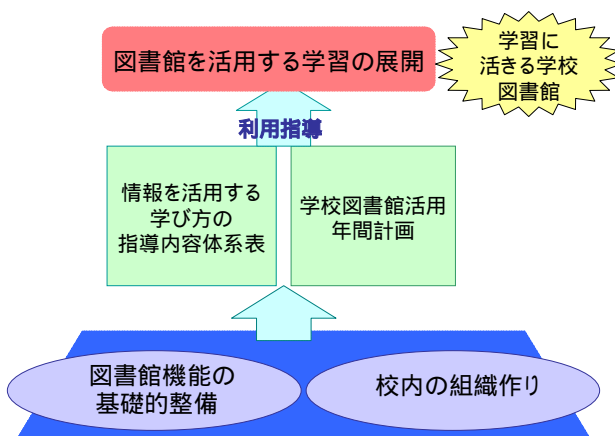
(2) 理想の学校図書館

2003年に「全国学校図書館協議会第33回学校図書館大賞」を受賞した鶴岡市立朝陽第一小学校の取り組みをまとめた冊子を参考に、どのような図書館をめざすかを考えた。

(3) 学習活動における学校図書館の役割

学校図書館が単なる読書活動の場ではなく、学習に生きる図書館(教育課程の展開に寄与する図書館)となるためには、学習情報センターとして機能するための整備を進めていくことが急務である。

(4) 図書館改善プラン(在籍校をモデルに)の作成と今年度の取り組み



在籍校は、これまで、読書センターとしての機能には力を入れてきた。しかし、学習情報センターとしてはあまり機能していないことが大きな悩みである。そこで、図書館改善のための3年計画を立てた。

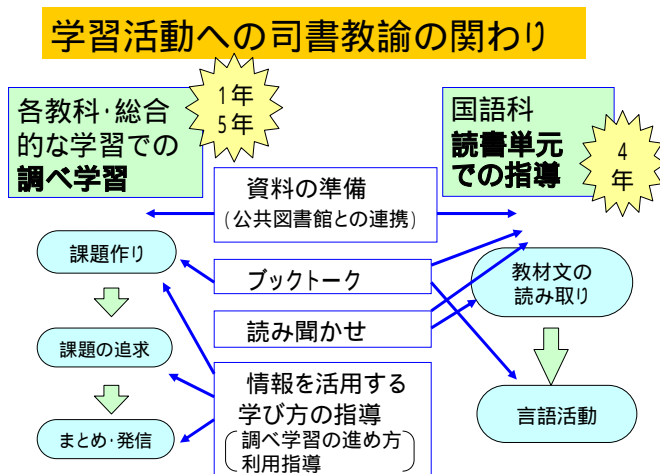
- | | |
|-----------|-----------------|
| 1年次(本年度) | 「図書館活用の基盤づくり」 |
| 2年次(17年度) | 「授業に生きる図書館に」 |
| 3年次(18年度) | 「心豊かに」「主体的な学びを」 |

今年度は、アンケートによる児童と職員の実態把握や図書館の基礎的整備、学び方の指導内容体系表・図書館活用年間計画の作成、図書館を活用する学習の授業実践などを行った。

5 実践事例の展開

(1) 司書教諭の役割と授業の構想

学習活動への司書教諭のかかわりは、大きく分けて「調べ学習」の支援と読書単元で子どもたちが読書を広げるための支援がある。



今年度は、1年生と5年生国語科での調べ学習、4年生の読書単元に司書教諭がかかわる学習を計画した。

1年生・4年生の学習では公共図書館から図書を借り、必要な図書の提供と役立つ資料のリスト作りを行った。

1年生と4年生の学習で、単元導入時のブックトークを計画した。

1年生・5年生の調べ学習では、学び方の体系表にあげた内容が身につくよう、ワークシートや指導法を工夫して取り組んだ。

(2) 事例の展開と考察

入門期の調べ学習を支援する授業づくり

1年生 説明文単元「のりものクイズ大会をひらこう」 教材文「いろいろなふね」

< 司書教諭のかかわり >

- ア 授業案の提案、担任との話し合い(児童の実態、つきたい力、単元構想など)
- イ 単元導入でのブックトーク
- ウ 調べ方の指導・・・抜き書きの仕方 (情報を活用する学び方の体系表参照)
- エ 資料の提供



児童は、本単元の学習中に乗り物に関するたくさんの本を読んでおり、ブックトークは、児童の読書意欲を喚起し多読や読み広げのためにとても有効だということが確認できた。

資料の提供に関しては、1年生にふさわしい資料を準備すること、役立つ本をリストとして残していくこと、また、リストにあげた図書を優先的に自校の図書館資料としてそろえていくことが大切である。

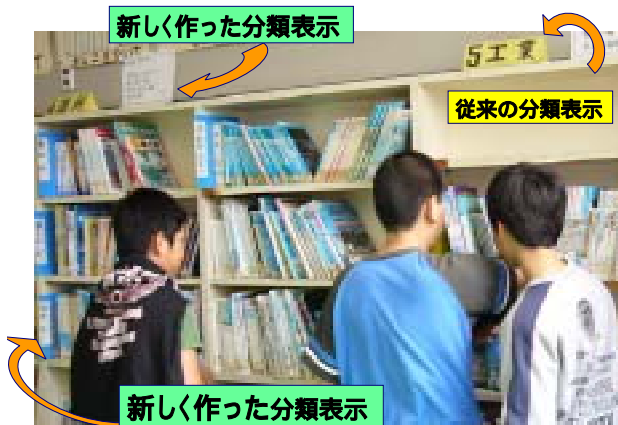
入門期では、無理のない調べ学習を計画し、調べる楽しさや本で調べることのよさを感じ取らせたい。

資料の探し方・使い方を身につける授業作り

5年生 説明文単元「役立つブックガイドを作ろう」 教材文「森林のおくりもの」

< 司書教諭のかかわり >

- ア 授業案の提案、担任との話し合い(児童の実態、つきたい力、単元構想など)
- イ 調べ学習の支援 テーマ決定 資料探し まとめ方
 < 身に付けたい情報活用の力(情報を活用する学び方の体系表参照) >
 資料の種類 資料の探し方 資料リストの作成と活用



テーマ決定は、児童の主体的な学習の第一歩となるので、有効な方法を研究していくことが必要である。(今回は、ウエビングを取り入れた)
 「いろいろな資料の利用」など、学び方の体系表にあげた内容を単元の学習とかかわらせて指導するように位置づけると効果的である。
 細かな分類表示や調べるための本『どの本で調べるか』は、資料探しに有効であった。
 出来上がったブックガイドと資料リストは、図書館において他の学年に役立ててもらおう予定にしている。

児童が取り組むミニブックトーク

4年生 読書単元「愛の心をえがいた本をよんでブックトークをしよう」教材文「世界一美しいぼくの村」

< 司書教諭のかかわり >

- | | |
|-------------------|--------------------|
| ア 授業案の提案、担任との話し合い | イ 単元導入のブックトーク |
| ウ 図書の提供 | エ 読み聞かせ(同一作者の書いた本) |
| オ ブックトークの方法を指導 | |



ブックトークで本と本をつなぐ言葉を考えたり、紹介方法を考えたりするときはグループの友達同士で活発に話し合う姿が見られた。

ブックトークの原稿作りでは、選んだ本にどんな「愛の心」が描かれているのかなどを考えながら、どの子も繰り返し本を読んだ。

ブックトークを聞いた3年生がよかったところをたくさんほめてくれ、4年生はとても自信になった。学習後のアンケートでは、全員が「ブックトークにちょうせんの学習が楽しかった」と答え、85%の児童が「またブックトークをしてみたい」と答えていた。

6 本年度の成果と課題

図書館を活用する授業を計画し、司書教諭が授業に入ることによって、本と子ども・本と授業・本と先生をつなぐことができた。調べ学習や、ブックトークに挑戦では、児童が主体的に取り組む姿がたくさん見られた。今年度は、国語科だけの実践だったので、来年度は、他教科や総合的な学習にも司書教諭としてかかわっていきたい。司書教諭が授業に出て図書館のよさをアピールしていくことが、全職員の理解につながる。

情報を活用する学び方の指導内容体系表・図書館利用の年間指導計画を作成することにより、系統的、計画的に図書館教育が進められるようになる。しかし、計画表を作っただけでは、学習での図書館活用は進まない。具体的な児童の活動や指導法がイメージできるように研修会を持つことが必要である。

図書の分類表示作りや郷土資料コーナーの設置など、図書館の整備を進めることにより、使いやすい図書館に変わりつつある。図書ラベルの統一など学習に使える図書館にするための基礎的整備に、来年度も、全職員の協力を得ながら取り組んでいきたい。

学校図書館の経営を司書教諭が一人で行うのではなく、学校図書館司書や図書館担当と役割分担し、保護者ボランティアの協力を得たり公共図書館との連携を図ったりしながら、協力して取り組むことが大切である。

7 おわりに

私の研究は、まだ始まったばかりである。3年計画の見直しや3年経過後の新たな展開も考えていかなければならない。青谷町では、来年度学校図書館司書の配置があるかどうか危うい。思い描いたとおりに図書館活用が進むとは限らないが、めざす図書館にするためのイメージをしっかりと持ち、他の先生方と協力しながら前向きに取り組んでいきたい。